

年報

— 平成 9 年度 —

1998

大磯町郷土資料館

目 次

[事業報告]

庶務 4

- ・ 組織および職員
- ・ 運営委員会
- ・ 予算
- ・ 維持管理
- ・ 入館者

学芸 6

- ・ 特別展
- ・ 企画展
- ・ 学級・講座
- ・ 刊行物
- ・ 調査・研究
- ・ 博物館実習
- ・ 博物館資料の収集と利用

[研究報告]

磯原天紀社と富士山興法寺船靈軸

— 船靈信仰を追って —

石 塚 勝 治 16

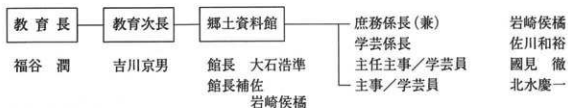
館所蔵民具目録 — 農具 I —

佐 川 和 裕 21

事業報告

庶 務

■組織および職員



■運営委員会

〈委員の構成〉

- ・石井四郎 区長会連絡協議会委員 (平成9年5月～)
- ・石田和夫 学識経験者
- ・稲葉和也 文化財専門委員
- ・福井靖史 学校長
- ・広瀬利郎 社会教育委員
- ・長岡泰次郎 区長会連絡協議会委員 (～平成9年4月)

〈委員会の開催〉

- ・平成9年8月27日 平成8年度事業報告、平成9年度事業について
- ・平成10年2月26日 平成9年度事業の進捗状況、平成10年度事業計画について

■予算

〈当初予算の推移〉

単位：円

年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度
金額	84,403,000	76,955,000	77,930,000	63,697,000	62,526,000

〈平成9年度決算〉

単位：円

事業	運営事務	維持管理	学芸活動	特別展	企画展	教育普及	計
金額	4,202,453	17,999,453	2,427,627	1,376,380	654,087	444,410	27,104,410

□職員給与 (32,957,530) □委員等報酬 (43,800) □歳出合計 (60,105,740)

■維持管理

〈委託業務〉

- ・総合清掃委託/㈱フジワールド
- ・敷地管理委託/ (財)神奈川県公園協会
- ・警備委託/㈱全日警横浜支社

- ・自家用電気工作物保守点検委託／小島電気管理事務所
- ・消防用設備保守点検委託／(株)ヒラボウ
- ・自動ドア保守点検委託／(株)神奈川ナブコ
- ・昇降機保守点検委託／ダイコー(株)横浜営業所
- ・空調設備保守点検委託／高砂熱学工業(株)横浜支店
- ・浄化槽保守点検委託／湘南興業(株)
- ・燻蒸業務委託／関東港業(株)横浜営業所
- ・動物剥製作成委託／(株)尼ヶ崎科学標本社

〈施設の修繕〉

- ・モニターテレビ修理／湘南家電
- ・車椅子バンク修理／仲手川自転車店
- ・ワープロ修理／日政事務機(株)
- ・床修繕他／高橋建設
- ・給水装置ポンプ用マグネット交換他／高砂熱学工業(株)横浜支店
- ・誘導灯設備修理／(株)ヒラボウ

■入館者

〈入館者の推移〉

単位：人、日

	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	累計(昭和63年～)
入館者数	37,882	37,565	35,014	31,218	28,857	356,634
1日平均／開館日数	131／289	130／289	121／290	111／281	103／278	131／2,707

〈月別入館者数〉

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入館者数	3,042	3,213	2,216	1,017	2,286	1,628	3,642	3,696	1,115	1,065	2,375	3,562	28,857
1日平均	127	129	92	51	88	74	146	154	53	50	107	148	103

〈見学・視察〉

館対応分のみ

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	1	1	5	0	1	1	2	1	2	0	4	2	20

〈研修室の利用〉

単位：団体

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	17	18	12	14	8	9	23	17	15	13	16	17	179

学 芸

■特別展

「動物の生活と体のつくりー羽と歯を中心にー」

期 間 平成9年10月12日(日)～11月16日(日)

開場日数 31日間

会 場 企画展示室

出品点数 約100点

料 金 無料

入場者数 5,580人

(趣 旨) 生物において生活環境と体のつくりは密接な関係があり、鳥類や哺乳類では顕著にあらわれている。この度の企画展では、鳥類の「羽」、哺乳類の「歯」にスポットをあて、生息環境の差からくる器官の形態および機能性の違いを、町内で生息する動物の剥製を活用して比較した。「羽」については特に習性と羽の形の関係、「歯」については、食性と歯の並び、機能の関係を紹介した。展示を通し、身近に生息する鳥類、哺乳類の種類と生態を知る機会とした。

(内 容) 《羽について》町内に生息する40種類の鳥類を展示した。風切羽、雨覆羽など羽の各部の名称および機能を紹介するとともに、留鳥、旅鳥の風切羽の大きさを比較し、渡りと風切羽の関係について考えた。

《歯について》町内に生息する哺乳動物7種の本剥製と頭骨を展示し、雑食性の動物、草食性の動物の歯の並び、機能の違いを紹介した。特に草食性の動物については臼歯の形、肉食に近い雑食性のものは全体の歯の形に注目した。

(担 当) 北水慶一



「展示解説」

期 日 平成9年11月9日(日)・16日(日)

会 場 企画展示室

講 師 北水慶一(当館学芸員)

聴 講 者 延42人

(趣 旨) 鳥類、哺乳類の形態、生態の理解を深めるために展示解説をおこなった。

(内 容) 展示を観覧しながら補足説明とともに不明な点、疑問な点について解答した。

(担 当) 北水慶一



■企画展

「鋏 KUWA -土の記憶-」

期 間 平成9年7月27日(日)～9月7日(日)

開場日数 35日間

会 場 企画展示室

出品点数 約150点

料 金 無料

入場者数 3,064人

(趣 旨) 昭和63年10月に開館して以来、当館では一貫して当地域にかかわる資料や情報の収集に努めており、多くの方々のご理解とご協力を得て資料はたいへん充実しつつある。そして、これらの資料を積極的に活用することは、特に人々が愛用し続けてきた道具には、



往時の記憶が色濃く残されている場合が多い。そこで、大磯丘陵とその周辺地域で使用されてきた農具(鎌)を通して、地域の自然環境と先人たちの暮らしぶりを再考することを試みた。特に、地域によって鎌の形態に違いがあることを明示し、その要因についてもいくつかの可能性を考えた。

(内 容) 田畑の耕起、碎土、均平、作条などの機能を伴うものとして鎌をとらえるならばその種類も用途も多彩であるが、今回は一般に鎌として形態的にイメージが強いと思われるウナイグワ、サクリグワ、マンガ、トグワ、カブキリについて取り上げた。大磯丘陵とその周辺地域(主として大磯町、二宮町、中井町、平塚市と小田原市の一部)から100点余りの鎌を集成するとともに、比較のため神奈川県内外の鎌もあわせて展示した。また、鍛冶屋における刃の製作工程に添った製品や写真、あるいは鎌にかかわる儀礼についての資料も展示した。

(担 当) 佐川和裕

「雛人形」

期 間 平成10年2月15日(日)～4月5日(日)

開場日数 40日間

会 場 企画展示室

出品点数 約500点

料 金 無料

入場者数 5,676人

(趣 旨) 近年、次第に廃れつつある年中行事を伝えるとともに、当地域の伝統的な節供のあり方もあわせて再認識する契機とした。なお、恒例的な性格の展示で今回で3回目を数える。

(内 容) 当館の所蔵する明治～昭和40年代の雛人形を一堂に展示した。大磯町内外から寄託、寄贈されたもので、雑道具などを含めた展示点数は約500点にのぼった。

(担 当) 佐川和裕



■学級・講座

〈自然観察会〉

「鳥のハネを研究しよう」

日 時 平成9年6月14日(土)・15日(日)

会 場 研修室

講 師 北水慶一(当館学芸員)

参 加 者 延10人

(内 容) 鳥類剥製を観察しながら紙粘土を使って鳥の模型を作製した。剥製を凝視することにより鳥の羽、クチバシ、足の特長を捉えた。特に羽について解説を加え、羽の各部の名称、機能について紹介した。

(担 当) 北水慶一



「春を探しに高麗山へ行こう」

日 時 平成10年3月15日(日)

会 場 高麗山周辺

講 師 渡辺良子氏(元大磯中学校教諭)

参 加 者 19人

(内 容) 高麗山周辺を散策し、モクレイシ、ヤブニッケイなどの高麗山の植物、「高来神社のシイニッケイ」、「高麗ホルトノキ」などの町指定天然記念物の樹木を観察した。

(担当) 北水慶一



〈子ども歴史教室〉

「縄文土器をつくろう」

日 時 平成9年8月5日(火)・6日(水)・29日(金)

会 場 研修室

講 師 國見 徹 (当館学芸員)

参加者 延50人

(内 容) 大磯町内で実際に発掘された縄文土器を参考として、縄文土器の形や機能を考えながらできるだけ忠実に作ることを目的とした。乾燥後に海岸で野焼をして完成させた。

(担 当) 國見 徹・佐川和裕



〈民俗実習講座〉

日 時 平成9年9月5日(金)

会 場 研修室

講 師 土方考策氏(町内虫窪在住)

参加者 5人

(内 容) ワラソウリ作りを通して郷土の伝統技術を体験、継承する。博物館実習カリキュラムに組入れ、若い世代を対象として実施した。

(担 当) 佐川和裕



〈郷土史講座〉

「神奈川県道の祖神祭」

日 時 平成10年2月15日(日)

会 場 研修室

講 師 小川直之氏(國學院大学文学部助教授)

参加者 44人

(内 容) 平成9年12月に「大磯の左義長」が国の重要無形民俗文化財に指定されたことになみ、神奈川県内各地で行われている道祖神祭について、民俗学的に解明することを目的とした。

(担 当) 佐川和裕



■刊行物

・企画展チラシ「鉄 KUWA 一土の記憶ー」	A4版	—	4,000部	(平成9年7月刊)	
・企画展図録「鉄 KUWA 一土の記憶ー」	A4版	12頁	800部	(平成9年7月刊)	
・常設展リーフレット「炭と暮らす」	B5版	4頁	2,000部	(平成9年9月刊)	
・Report—大磯町郷土資料館だより—16号	B5版	12頁	2,000部	(平成9年10月刊)	
・特別展チラシ「動物の生活と体のつくり」	A4版	—	4,000部	(平成9年10月刊)	
・特別展ポスター「動物の生活と体のつくり」	B3版	—	350部	(平成9年10月刊)	
・特別展図録「動物の生活と体のつくり」	A4版	28頁	500部	(平成9年10月刊)	
・年報—平成8年度—	A4版	24頁	800部	(平成9年12月刊)	
・資料館資料「大磯の年中行事」	B5版	38頁	500部	(平成10年3月刊)	*復刻

■調査・研究

〈調査、研究、発表、普及等〉

- ・考古歴史民俗自然資料調査(年間、大磯町内外) 國見 徹・佐川和裕・北水慶一
- ・神奈川県博物館協会会報編集(年間、神奈川県立歴史博物館他) 國見 徹

- ・相模民俗学会総会参加（5月18日、神奈川県立歴史博物館）佐川和裕
- ・県博物館協会自然部会研修会参加（5月30日、箱根町立大涌谷自然科学館他）北水慶一
- ・日本考古学協会総会参加（5月25日、立正大学）國見 徹
- ・駒澤大学博物館実習講義（6月8日、当館）國見 徹
- ・大磯町学校教育振興会環境領域部会研修会講義（6月25日、大磯町内）北水慶一
- ・中郡小学校教育研究会講義（8月7日、当館）佐川和裕
- ・県博物館協会人文部会研修会参加（8月8日、小田原城他）國見 徹
- ・国府小学校2年生生活科講義（10月2日、大磯町内）佐川和裕
- ・日本民俗学会年会参加（10月4日～5日、東京家政学院大学）佐川和裕
- ・県博物館協会自然部会研修会参加（10月8日、大磯町内）北水慶一
- ・大磯町史民俗部会参加（10月13日・12月15日、大磯町内）佐川和裕
- ・県博物館協会機能研究部会研修会参加（10月23日～24日、滋賀県立琵琶湖博物館他）北水慶一
- ・相模民俗学会研究会発表（平成10年1月18日、神奈川県立歴史博物館）佐川和裕
- ・国府小学校・二宮小学校3年社会科講義（2月5日・3月12日、当館他）佐川和裕
- ・山北町民具総合調査参加（2月9日、山北町）佐川和裕

〈執筆〉

佐川和裕

- 1997. 7 『鉄 KUWA -土の記憶-』大磯町郷土資料館企画展図録
- 9 「展示批評 くくにたち郷土文化館企画展示 人生儀礼の諸相-誕生・結婚・葬送をめぐる人々-」『民具研究』第115号 日本民具学会
- 10 「野良着と家着」「盆棚」「多摩民具辞典」(財)たましん地域文化財団
- 12 「二宮町山西の民俗(1)」『年報-平成8年度-』大磯町郷土資料館
- 1998. 3 「審沢の藤衣」「足柄の文化」第25号 山北町地方史研究会
- 3 「大磯・東町・高麗の農耕」『大磯町民俗調査報告書5-大磯の民俗(2)-』大磯町

國見 徹

- 1998. 3 「編集後記」他 『神奈川県博物館協会会報』第69号 神奈川県博物館協会

北水慶一

- 1997.10 『動物の生活と体のつくり-羽と歯を中心に-』大磯町郷土資料館特別展図録

■博物館実習

博物館学芸員資格取得のための実習として4大学6名の学生を受け入れた。実習期間は7月29日および9月2日～13日の延べ12日間とし、内容は地域博物館の実情について学ぶことを基本として総合的な実習をおこなった。また、実習の後半には、常設展示室の一部展示替えをおこなった。

〈実習生〉

赤星倫明（駒澤大学）、袋井大地（同）、加藤明子（東海大学）
大淵貴志（同）、中川純子（専修大学）、増田直子（聖心女子大学）

7月29日(火)	ガイダンス、館内見学	9月7日(日)	自然系実習（資料の分類、整理）
9月2日(火)	講義、町内施設・史跡等見学	9月9日(火)	展示替実習（企画立案、資料調査）
9月3日(水)	考古系実習（発掘調査）	9月10日(水)	展示替実習（資料調査、旧展示片付、展示器材作成）
9月4日(木)	考古系実習（発掘調査）	9月11日(木)	展示替実習（資料展示、リーフレット作成）
9月5日(金)	民俗実習講座参加（ワラソウリづくり）	9月12日(金)	展示替実習（資料展示、リーフレット作成）
9月6日(土)	実技実習（資料取扱、梱包、16mm映写）	9月13日(土)	展示替実習（資料展示、リーフレット作成）

(担当) 國見 徹・佐川和裕・北水慶一

■博物館資料の収集と利用

〈寄贈資料〉

No	受入年月日	資料名	数量	受入先	No	受入年月日	資料名	数量	受入先
0401	H 9. 4. 1	ミシン 他	4	今井花子 大磯町国府新宿	0901	H 9. 9. 17	ポスト 他	一括	西海 誠 大磯町大磯
0403	4. 4	貝化石(岩石ブロック)	2	木村純子 大磯町大磯	0902	9. 30	アンカ 他	2	後藤鶴子 大磯町西小磯
0404	4. 8	行李	1	(株)小田原被服	1001	10. 1	電話機 他	5	中野俊雄 大磯町大磯
0405	4. 10	タブネ 他	28	小川直吉 大磯町大磯	1002	10. 29	書籍	1	木村純子 大磯町大磯
0406	4. 10	カメラ 他	3	鈴木良一 大磯町国府新宿	1003	10. 29	茶筍筒	1	鈴木昭三 大磯町大磯
0407	4. 11	古書籍	1	森田康夫 大磯町大磯	1004	10. 30	ガラスケース 他	一括	四ツ谷スミ 大磯町大磯
0408	4. 11	古書籍	1	渡辺長吉 大磯町西小磯	1006	10. 31	レコード 他	一括	木村純子 大磯町大磯
0409	4. 17	書籍	12	菊池なつみ 大磯町大磯	1101	11. 12	二重朝鮮筆筒	2	大磯町立大磯小学校
0410	4. 22	計算尺 他	一括	木村純子 大磯町大磯	1103	11. 14	書籍	1	山本和恵 大磯町国府本郷
0412	4. 23	ホンゼン 他	一括	今井花子 大磯町国府新宿	1104	11. 28	顕微鏡 他	3	後藤鶴子 大磯町西小磯
0413	4. 23	ホンゼン 他	10	鈴木良一 大磯町国府新宿	1201	12. 5	風呂敷	1	鈴木誠一 大磯町西小磯
0414	4. 24	カワラヒワの巣 他	17	木村純子 大磯町大磯	1202	12. 7	看板	1	加藤耕造 大磯町大磯
0501	5. 15	スズメバチの巣	1	加藤元治 大磯町国府本郷	1203	12. 7	トックリ	1	山口善章 大磯町大磯
0502	5. 15	着物 他	10	加藤春雄 平塚市重平	1204	12. 7	テヌグイ 他	2	飯田善雄 大磯町大磯
0503	5. 20	五月人形	1	飯田一夫 大磯町大磯	1205	12. 7	片口 他	11	木村純子 大磯町大磯
0504	5. 28	ナガジュバン 他	3	加藤春雄 平塚市重平	1206	12. 9	版木 他	69	西海 誠 大磯町大磯
0505	5. 28	カメラ 他	17	木村純子 大磯町大磯	1207	12. 16	タキツケ	5	斉藤安之助 大磯町大磯
0601	6. 21	絵はがき 他	一括	木村純子 大磯町大磯	1208	12. 16	新聞	一括	木村純子 大磯町大磯
0701	7. 22	絵はがき 他	一括	木村純子 大磯町大磯	1209	12. 24	蠶札	1	奥野和三部 大磯町大磯
0801	8. 4	重箱	2	鈴木昭三 大磯町大磯	1210	12. 27	クシ	1	今井きみよ 平塚市夕陽が丘
0802	8. 12	イトグルマ 他	12	大井町教育委員会	1211	12. 28	書籍	1	駿東多津子 大磯町東小磯

No	受入年月日	資料名	数量	受入先	No	受入年月日	資料名	数量	受入先
0101	H10.1.6	マエカケ他	19	畠山恵子 二宮町富士見が丘	0203	H10.2.25	盃	3	西山敏夫 二宮町山西
0103	1.31	書籍	74	木村純子 大磯町大磯	0204	2.26	書籍	12	木村純子 大磯町大磯
0201	2.17	牛車の車輪	1	山田正明 大磯町生沢	0301	3.25	書籍他	一括	木村純子 大磯町大磯
0202	2.17	ヒゴノカミ	1	西山敏夫 二宮町山西					(敬称略)

〈寄託資料〉

No	受託年月日	資料名	数量	受託先	No	受託年月日	資料名	数量	受託先
0401	H 8. 4. 1	雛人形	一式	田川順三 横浜市緑区	0413	H 8. 4. 1	四季耕作図他	9	守屋松三郎 大磯町黒岩
0402	4. 1	高札	3	坂井保治 大磯町黒岩	0414	4. 1	吉田茂杯他	5	大沢武久 大磯中学校
0403	4. 1	一本松講中資料	一括	宮代治吉 大磯町大磯	0415	4. 1	稲荷講資料	一括	中村晴夫 大磯町西小磯
0404	4. 1	菊池重三郎関係資料	一括	菊池なつみ 大磯町大磯	0416	4. 1	掛軸他	一括	小西直茂 西小磯(東・西)区
0405	4. 1	サフラン看板	1	添田佐助 大磯町国府本郷	0411	4. 1	学校手帳他	2	山川 正 大磯町月京
0406	4. 1	掛軸	1	高木とみ子 大磯町西小磯	0412	4. 1	七夕資料他	一括	相田 稔 西小磯子ども会
0407	4. 1	小磯囃子道具	一括	渡辺長吉 大磯町西小磯	0417	4. 1	鏡監帽他	6	小西直茂 西小磯(東)区
0408	4. 1	書(断片)	一括	加藤文八 平塚市諏訪町	0418	4. 1	獅子頭	2	原田繁雄 裡道区
0409	4. 1	古文書	一括	後藤 勲 大磯町月京	0419	4. 1	古文書	一括	近藤俊雄 大磯町国府本郷
0410	4. 1	稲荷講資料	一括	戸塚 浩 大磯町西小磯					(敬称略、寄託期間：H 8. 4. 1～H10. 3. 31)

〈移管資料〉

No	受入年月日	資料名	数量	受入先	No	受入年月日	資料名	数量	受入先
0402	H 9. 4. 1	磁器赤絵皿	1	大磯町教育委員会	0102	H10.1.23	レコード	2	大磯町環境経済部

〈購入資料〉

No	購入年月日	資料名	数量	購入先	No	購入年月日	資料名	数量	購入先
1212	H 9. 7.10	錦絵、絵はがき他	6	すりもの堂書店	1213	H 9.12.10	古地図	1	西田書店

〈資料の館外貸出〉

資料名	点数	利用目的	期間	申請者	資料名	点数	利用目的	期間	申請者
鳴立庵資料	1	町史編纂	H 9. 4. 1 ～ 4.11	大磯町 企画政策室	ビデオテープ (町政100周年)	1	視察	H 9.10.29 ～ 10.30	大磯町 社会福祉協議会
吉田茂資料	3	展示	4.15 ～ 5.15	外務省 憲政記念館	写真パネル	一括	展示	11. 8 ～ 12. 7	さがみ信用金庫
写真 (鳴立庵)	1	刊行物掲載	4.24	㈱マル社	書籍	1	資料調査	11.14 ～ 11.20	大磯町 企画政策室
写真、図書、 ビデオテープ	32	文化祭資料	5. 5 ～ 5.24	個人	地質調査委託報告書	1	参考資料	11.26 ～ 12. 2	大磯町 教育委員会
古文書 (旧鈴木春香家文書)	83	町史編纂	5.15 ～ 5.16	大磯町 企画政策室	古文書 (旧小島本陣資料)	4	展示	11.29	(財)国土開発 技術開発センター
槍先形尖頭器	1	講演会	6.24	個人	書籍	1	ホームページ	12. 5	NTT神奈川支店
エアポンプ	1	幼児教育	6.26 ～ 7.11	大磯町立 大磯幼稚園	ビデオテープ (町政100周年)	2	参考資料	1.24 ～ 2.13	個人
菊池重三郎関係資料	18	展示	6.28 ～ 10.31	㈱乃村工藝社	古文書 (旧中川良知家文書)	1	町史編纂	2.27 ～ 3. 3	大磯町 企画政策室
テレビ、扇風機 他	8	展示	7. 9 ～ 9.30	南足柄市 郷土資料館	スライド 他	7	町史編纂	2.12 ～ 2.28	大磯町 企画政策室
実測図 (馬場台遺跡出土銅印)	1	刊行物掲載	7.11 ～ 7.30	㈱山川出版社	スライド	6	町史編纂	2.19 ～ 2.28	大磯町 企画政策室
地質調査委託報告書	1	参考資料	7.25	大磯町 郷土委員会	写真 (王福寺薬師如来)	1	刊行物掲載	3. 6 ～ 4.14	平塚市博物館
注口土器 他	7	展示	8.14 ～ 10. 2	東海大学 考古学研究室	写真 (海水浴場)	7	刊行物掲載	3.12 ～ 4. 1	㈱エス・ネット
菊池重三郎関係資料	2	刊行物掲載	8.22 ～ 9.30	㈱彰国社	書籍 (雑誌「大磯」)	4	参考資料	3.17 ～ 3.27	個人
古文書 (旧小島本陣資料)	3	町史編纂	8.29 ～ 9.30	大磯町 企画政策室	古文書 (旧大磯町漁業組合文書)	2	町史編纂	3.24 ～ 3.31	大磯町 企画政策室
ビデオテープ (鎌倉囃子)	1	授業	10.22 ～ 10.29	大磯町立 国府中学校					

〈資料の特別利用〉

資料名	点数	利用方法	年月日	申請者	資料名	点数	利用方法	年月日	申請者
絵はがき (海水浴)	1	撮影	H 9. 4.22	日本放送出版協会	資料館館内、外観、 事業風景	—	撮影	H 9. 9. 5	個人
錦 絵 (榊龍館繁栄之図)	1	撮影	6.12	㈱JR東日本企画	資料館館内、外観	—	撮影	10.21	㈱TVKテレビ
資料館館内	—	撮影	8. 2	個人	資料館館内	—	撮影	12.10	㈱アート設計
注口部土器 他	7	撮影	8.14	東海大学 考古学研究室	松本朋人形、サーベル	3	撮影	12.22	佐倉市 教育委員会
文 書 (旧加藤文字家文書)	140	閲覧・撮影	8.24	㈱致知出版社	古写真、絵はがき	7	複写	H 10. 1.23	神奈川県湘南 なごさ事務所
資料館館内、事業風景	—	撮影	9. 2	個人	展 示 (「雛人形」展)	—	撮影	2. 6	NTT神奈川支店

資料名	点数	利用方法	年月日	申請者	資料名	点数	利用方法	年月日	申請者
収蔵民具	一括	撮影	H10.2.15	個人	資料館館内	—	撮影	3.7	個人
写真 (海水浴)	4	複写	2.17	大磯町 都市建設部	展示 〔「雛人形」展〕	—	撮影	3.8	個人
写真 (松本順、海水浴)	6	複写	2.18	佐倉市 教育委員会	資料館館内	—	撮影	3.18	個人
展示 〔「雛人形」展〕	—	撮影	2.21	湘南ケーブル ネットワーク	貝化石	—	撮影	3.24	相模原市立博物館
絵はがき (海水浴)	4	撮影	2.25	プロテックス テレビ東京制作					

〈文献寄贈機関・団体〉

一県内一

神奈川県／神奈川県教育委員会、神奈川県教育庁、神奈川県県民部青少年室、神奈川県生涯学習情報センター、神奈川県湘南なぎさ事務所、神奈川県町村会、神奈川県博物館協会、神奈川県立神奈川近代文学館、神奈川県立金沢文庫、神奈川県立公文書館、神奈川県立自然保護センター、神奈川県立生命の星・地球博物館、神奈川県立図書館、神奈川県立埋蔵文化財センター、神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター、神奈川県立歴史博物館、神奈川文学振興会、(財)かながわ考古学財団

横浜市／神奈川地域史研究会、神奈川大学日本常民文化研究所、相模民俗学会、シルク博物館、玉川文化財研究所、マリタイムミュージアム、横浜市教育委員会、横浜市勤労福祉財団、横浜市こども植物園、横浜市中央図書館、横浜市歴史博物館、横浜市立金沢動物園、横浜自然観察の森、横浜人形の家、横浜美術館、グリーンタフ、(財)神奈川近代文学館、(財)横浜市ふるさと歴史財団、埋蔵文化財センター、(財)馬事文化財団、寺家ふるさと村・四季の家、横浜税関

川崎市／川崎市市民ミュージアム、川崎市立日本民家園、細山郷土資料館

横須賀市／横須賀市教育委員会、横須賀市自然人文博物館

鎌倉市／鎌倉国宝館、鎌倉文学館

藤沢市／江ノ島水族館、湘南考古学研究所、藤沢市教育委員会、藤沢市文書館

茅ヶ崎市／茅ヶ崎市文化資料館

相模原市／相模原市教育委員会、相模原市立相模川ふれあい科学館、相模原市立博物館

綾瀬市／綾瀬市教育委員会、綾瀬市秘書課市史編集係

海老名市／海老名市温故館、海老名市教育委員会

座間市／座間市教育委員会

厚木市／厚木市教育委員会

秦野市／丹沢自然保護協会、秦野市教育委員会

平塚市／神奈川考古学会、東海大学校地内遺跡調査団、平塚市教育委員会、平塚市中央図書館、平塚市博物館、平塚市美術館

小田原市／小田原市教育委員会、小田原市郷土文化館、小田原城天守閣、報徳博物館

南足柄市／南足柄市郷土資料館

葉山町／葉山しおさい博物館

寒川町／寒川町企画部町史編さん係

大磯町／神奈川県立大磯高等学校、山王幼稚園

二宮町／徳富蘇峰記念館

開成町／開成町教育委員会

- 山北町 / 山北町教育委員会
 箱根町 / 箱根町立大涌谷自然科学館、箱根町立郷土資料館、箱根町教育委員会、箱根を守る会
 真鶴町 / 真鶴町立中川一政美術館
 相模湖町 / 相模湖町教育委員会

一 県外一

- 東京都 / 板橋区立郷土資料館、伊豆大島火山博物館、東京都江戸東京博物館、江戸東京たてもとの園、NHKプロモーション、青梅市教育委員会、青梅市郷土博物館、大田区立郷土博物館、お茶ノ木女子大学、葛飾区教育委員会、くにたち郷土文化館、憲政記念館、ココヨ株式会社、品川区教育委員会、世田谷区教育委員会、たばこと塩の博物館、(株)彰国社、(株)丹青研究所、調布市郷土博物館、通信総合博物館、東海道ネットワークの会、東京家政学院生活文化博物館、東京国立博物館、東京都埋蔵文化財センター、東京学芸大学教育学部生涯学習研究室、東武美術館、豊島区立郷土資料館、トランヴェール編集部、日本ユネスコ協会連盟、府中市郷土の森博物館、福生市教育委員会、船の科学館、町田市立国際版画美術館、町田市立博物館、明治神宮宝物殿、弥生美術館、郵政研究所附属資料館、外務省外交史料館、儀礼文化学会、(財)日本博物館協会
- 北海道 / 北海道開拓の村、(財)アイヌ民族博物館
- 岩手県 / 牛の博物館
- 福島県 / 磐梯町磐梯山麓日寺資料館
- 群馬県 / 北橋村教育委員会
- 栃木県 / 栃木県立しもつけ風土記の丘資料館、栃木県立埋蔵文化財センター
- 茨城県 / 東町立歴史民俗資料館、土浦市教育委員会、上高津貝塚ふるさと歴史の広場、龍ヶ崎市歴史民俗資料館、水戸市立博物館
- 千葉県 / 我孫子市鳥の博物館、国立歴史民俗博物館、市立市川自然博物館、市立市川歴史博物館、袖ヶ浦市郷土博物館、館山市立博物館、千葉県立中央博物館、千葉市立加曾利貝塚博物館、流山市教育委員会、流山市立博物館、松戸市立博物館、茂原市立美術館・郷土資料館
- 埼玉県 / 朝霞市博物館、大井町教育委員会、さいたま川の博物館、埼玉県立博物館、狭山市立博物館、立正大学熊谷校地遺跡調査会
- 山梨県 / 釈迦堂遺跡博物館、昭和町教育委員会
- 長野県 / 茅野市教育委員会、茅野市八ヶ岳総合博物館、藤村記念館、山口村教育委員会、茅野市尖石考古館
- 静岡県 / 静岡県立美術館、静岡県立登呂博物館、沼津市歴史民俗資料館、浜松市博物館、藤枝市郷土博物館、舞坂町立郷土資料館
- 愛知県 / 安城市歴史博物館、豊橋市教育委員会、豊橋市自然史博物館、豊橋市二川宿本陣資料館、豊橋市美術博物館、常滑市民俗資料館
- 岐阜県 / 多治見文化財保護センター、多治見市教育委員会
- 滋賀県 / 大津市歴史博物館、草津市教育委員会
- 京都府 / 京都橘女子大学、舞鶴市立赤れんが博物館、向日市文化資料館、(株)京都科学
- 大阪府 / 国立民族学博物館、大阪市立自然史博物館
- 奈良県 / あやめ池遊園地自然博物館
- 三重県 / 亀山市歴史博物館、真珠博物館、(株)御木本真珠島
- 兵庫県 / 神戸市立博物館
- 鳥根県 / 鳥根県教育委員会
- 山口県 / 伊藤公資料館
- 愛媛県 / 愛媛県立歴史文化博物館

研究報告

磯原天妃社と富士山興法寺船霊軸 —船霊信仰を追って—

石塚勝治

船霊様との出会い

消えそうな思い出がある。専漁の集落だった前羽村町屋（現・小田原市前川）に生まれた私がまだ小学生の昭和25年頃、近所の垣根に廃船の船板が使っていた。彫り込んだ四角の穴に寛永通宝が重ねて埋め込まれているのを見つけた。

昭和49（1974）年、大阪に創設される国立民族学博物館の依頼で、前川浜に伝わる船霊様の製作を、当地でただ一人になった船大工・小田原市羽根尾の黒柳国太郎さんをお願いした。前川浜では船霊様を準備し、御霊入れまで船大工が行う。船霊様は依頼する船主さえも見るのを戒め、御霊入れの儀式でも、船に乗るのは船大工のみ、他の人は船を囲んで下にいる。ましてや、船大工の家で行われる二体の人形や付属の品々について実見した人はいない。船大工も他の人に儀式の内容について語りたがらず、秘儀として親方から伝えられている。

使用目的を理解された黒柳さんの好意で、一部の秘儀を除き眼の前で接した。余談になるが、船霊様を納めた厨子は、中を見るものではないと黒柳さんの主張でボンドを塗った木片で密封された。

戦後30年を経た当時、すでに船霊様にかかわる儀式も、いろいろな方法に変化していた。地方によって、船大工、寺の僧侶、神社の神主に依頼したり、大型漁業の盛んな宮城県石巻港の例では、船具店で雛人形のようにセットで販売していた所もある。船大工が準備をし、秘儀を行う前川浜は古式を保っていたといえる。平成10年5月、鳥羽の海の博物館を見学したが、10組近くの船霊様のうち、色彩やかな色紙を使い、目鼻立ちも人形のプロが作ったと思われるものがあった。

昭和20年から30年にかけて水揚げの多かった時代を過ぎ、昭和40年以降新造船もない。漁師も5指にも満たぬ今、黒柳さんも亡くなり、前川浜では船霊様の儀式を伝承する人はいない。

船霊様は新造船に祀る。他に不漁が続く、船主

が嫌気がさすとゲン直しに船霊様を替えたことがあった。また、不漁が続くと、船板を洗う泥等で船霊様を祀ってある所を叩き「船霊さん、漁をさせてくれ」と頼んだ。

船霊様を依頼する船主は、オサンゴウ（散米）、お神酒、掛魚に赤い魚（タイ、ホウボウ、キンメダイなど）を2尾、お白粉、紅、鏡、真田紐、麻苧、穴あき銭12枚と礼金を持参する。

黒柳さんは半紙をノミで短辺を2等分、長辺を4等分して8枚に分ける。8等分された半紙1枚で人形を2体つくる。形は流し雛に似る。ハサミで切るのは、切れるという言葉を忌み、ノミで突き分ける。ツクは運がツクに通じる。1体には真田紐、もう1体は麻苧を帯に見立てて締める。他に真田紐と麻苧を10cmくらいに2本ずつ切り、ひとつずつ結び目が中心にくるように結ぶ。結び方は一重結び。枕だという。真田紐と麻苧が2個ずつ。計4個。

穴あき銭は12枚。船霊十二社へのお賽銭だという。船霊十二社については前川浜の漁師からは採集されておらず、黒柳さんから初めて聞いた。

サイコロを2個、木で作る。一辺が1cmくらいのお小さなもの。市販のサイコロとは目のつけ方が異なるので船大工が作る。2個を平行に並べて、「イチ(1)天地ロク(6)、表ミ(3)合せ、ともシ(4)合せ、中んつな荷物にニ(2)合せ、おもかじグ(5)つつり、とりかじグ(5)つつり」となる。グはサイコロ賭博の「5・2の半」を「グニの半」というのと同様。

歌は多分にかじつけとなっているが、廻船が荷を満載した祝い歌ともとれる。同例の歌は、本州の南から北まで多少異なるところがあっても、多数収集されている。町屋の石塚与八さんから教えていただいたものと同じところからも、広く知られていたと思う。この歌が廻船と漁船両方に伝わることに注意したい。

船が遭難し、方向を失い進路を決めかねた時にこのサイコロを振って針路を決めたというが、目と方向の関係は伝えられていない。

紙で作られた人形は、丸めた紙を半紙で包み墨で目鼻口が描かれ顔となる。人が化粧をするように、黒柳さんは鏡を見せながら紅とお白粉で化粧をする。人形一対は正面合わせにして麻苧でしばる。東北のある地方では女神の着物の裾を広げ、男神を包むようにして納めるという。また人形は

1体だけのところもある。

その後の儀式は、船大工の秘儀で見学できなかった。船霊祭文を唱えるところもあるが不明である。

秘儀が終ると、博物館展示のため、幅10cm、高さ20cm、厚さ5cmくらいの木片の一部を長方形に彫り込んだ厨子に納め、木でフタをされていた。

前川浜では直接、船に埋め込むが、厨子に入れ船に打ちつけることも戦後は少例ながらあったという。木造船から鉄、プラスチック、グラスファイバーが多用される時代になって船に埋め込む例はなくなった。

前川浜の漁業は、木造の和船で終止符をうったといえる。船幅4尺から1間の船が多く、箱舟には船霊様を入れぬ船が多かった。船の胴を横に渡された2本の梁。三間つ子船では2番のトリカジ(左舷の前から2番目の梁)の船板、あるいは帆柱近くの板に穴を明け、人形一對、錢12枚、サイコロ、枕4個、昭和30年以降は少なくなったが女性の髪の毛、五穀を入れ、板で密封する。

船霊様は女性神?

船霊様については、住吉大明神、綿津見神、猿田彦など男性神が「古事記」などに見られるというが、海を生活の糧とする人の伝承では女性神が多い。

黒柳国太郎さんは大正2年生まれ。お父さんの平治郎さん(明治15年生まれ)について船大工の修業をされた。平治郎さんは二宮町梅沢の大島市五郎さんのもとで修業した。船大工は造船技術とともに船霊様の秘儀を親方から弟子に伝承する。前川浜の漁師が嫌がる魔性のものハモノは、時には現実的にマグロを食い荒すシャチを指すこともあるが、姿の見えぬハモノを船大工は見ることができるといふ。

和船の時代に使用した梶には、梶棒をさしこむ穴が上下ならんで2つあるが、下の穴から船大工がのぞくとハモノの正体が見えるという。呪術的な面も身につけた集団であった。

梅沢は弟橘媛を祀ってある吾妻山のおもとに位置する。そのためか船霊様は走水で夫の乗った船を助けるために入水した弟橘媛だと平治郎さんは子供の国太郎さんに伝えたという。船霊様の人形は前川浜では2体。1体は海難に遭った時に乗組員に代わって犠牲になり、もう1体が船を守ると

いう。1体は弟橘媛としても、もう1体の名前がでない。また、使用する船材は寺領地のものは良いが、神社の森、祠のある山のもは使わぬよう父・市五郎さんから伝えられた。

前川浜では、昭和20年代以降、女性の髪の毛や五穀は、船主からの申し出がなければ入れなくなった。髪の毛は地方によって結婚前の女性、それも初潮前の子供、七・五・三にあたる子供。船主や船大工の妻とバラバラである。前川浜の人形2体や化粧、2組計4個の枕は婚礼を思わせる。

家大工が棟上げの日、米俵を5俵、踏み俵といって贈られたことがあった。ヌサ飾りもある。ヌサ飾りにつけるのも船霊様の供えものと似る。ヌサ飾りには、大工棟梁の妻や娘の悲劇がからみつくが、双方に家や船に対する共通した思考がうかがえる。

磯原天妃社を訪ねて

相模湾と同じ黒潮に洗われる茨城県北茨城市磯原に、二宮町と同じ弟橘媛を祀る弟橘媛神社があるのを、宮田登氏の『歴史と民俗のあいだ』で知った。

古くには薬師如来と十二神将が祀られていたが延宝5(1677)年、中国から渡来した曹洞宗の僧・東泉心越によって道教の女神・天妃媽祖が長崎に持ち込まれた。像(伝承では絵)を水戸光圀が譲り受け、天保3(1690)年、磯原の海に面した小丘に祀られ、天妃社となった。

その後、朝日指峰と呼ばれた小丘は天妃山となった。天妃山は常磐の海に面と向くようにたち、わずか30mそここの小丘は、松と低木の常緑樹、下草にツワブキが自生し、真鶴半島を思わせる。

天妃媽祖は宗の建立年間(960-)、福建の浜辺



天妃山を望む

に生まれ、成長するにつれていくつもの奇跡をおこした。海辺の福建の人びとは、他国と船で商いをする人が多かった。媽祖がまだ子供の頃、突然意識を失った。驚いた両親は媽祖をゆり起こした。眼を開いた媽祖は「船に乗った兄3人は助けたが、起こされて一番上の兄さんを助けることはできなかった」と話した。数日して兄弟3人は戻ってきたが、媽祖のいうように長男だけは戻らなかった。

その後、媽祖は道教の神に祀られ、海上に働く人の海難守護の神として、現在でも中国・台湾を中心に信仰されている。

天保5(4834)年、水戸学を興した水戸藩は、尊皇攘夷思想によって中国の天妃を斎昭の命により日本の神に替えられた。日本武尊を海神の怒りを鎮めるために、自らを犠牲にした弟橘媛に。天妃媽祖も弟橘媛も海難から船と人を守る船神として祀られていた。

船大工の黒柳さんは「船霊さんは吾妻さん」と語られていたが、二宮と北茨城市磯原が同じ発想で結ばれていた。そして、十二神将が船霊十二社と関係があるのか。それ以上に天妃媽祖は初めて



興法寺船霊軸

知った海難防除の神・船神だった。後述するが寄贈された船霊様の信仰軸の主神が確定できずに20年も時が流れた。仏像図鑑などにも掲載がない。天妃媽祖を知って、御影でもあれば同定できると考えたのが、磯原行きの起因となった。

天妃山は、詩人・野口雨情の生家近くにあり、小丘ながら海に面して立つ。二宮の吾妻山と同様漁師は山アテの前山に用いる。かつて夜は修験の行蔵院があつて、夜は法明が灯台の代わりに、昼は旗を振って漁船に位置を示したと伝える。雨情の「磯原音頭」や他の作品にも詠まれるところからも、磯原周辺の人には親しまれているのを知った。境内には海に働く人の信仰を集める金毘羅社や、利根川流域を中心に福島にかけて漁師の憩となる大杉社もあり、磯原漁師の信仰形態を知った。現在、土地の人も他県の人でも参拝はほとんどなく、弟橘媛と天妃媽祖、雄都嘉が合祀されているが社務所もない。昔日の偲はないと近所の人に聞いた。

隣接する北茨城市大津町の大津港は、イワシ漁が盛んで漁港は茨城県でも屈指である。漁撈従事者も多いが、天妃山から港を望む佐波波地祇神社に参拝するようになった。こども船神である。アノコウの水揚げの多い北茨城市平潟港の漁師も、天妃山から同市華川町花園の花園神社に参詣するようになった。

磯原には漁港がなく、砂浜に揚げられた船もない。年に一度の祭り以外に、天妃社を訪れるのはマレという土地の人の話に印象に残った。



弟橘媛神社

富士山興法寺の船靈軸

小田原市前川(町屋)の北村実さんから、代々家に伝わってきた民間信仰軸十数本を寄贈された。そのなかに船霊と明記された軸が1本あった。

前川浜で行われる船霊にかかわる祭礼は、新造時や船霊様の入れ替え以外に例は少ない。石塚与八さんが昭和50年代まで、昭和20年代は盛大にそれぞれの船で行っていた浜年始を、1船で行っていた。

元旦の早朝、麦殻を束ねた松明に火をつけ、トリカジからオモテ、オモカジ、トモを回って火で船をあぶる舟タテをする。船に松を飾り、掛魚と鏡飾を供げる。海にお神酒を捧げ、トリカジ側から船霊様にお神酒を注ぐ。踏み跡のない清浄な波打際の砂を、ヒシヤクでとり、ミナオリの櫓枕(二番のトリカジ側)に、砂をひとつまみずつ2個のせる。

トリカジ(左舷)は神聖視されていたのか、船霊様は左舷に納める。魚を船にあげるのも左舷が多い。流れ仏(水死体)を船上にあげる時、泥箒で船板を叩きながら「漁をさせてくれれば揚げてやる」と問答の後に、オモカジ(右舷)から引き揚げた。

船大工が船を修理する時に、オモカジ側から乗船するのを船主にみつかるとどなられたという。トリカジ側から乗船するのが作法である。

正月3日は初船。龍宮社の見える海上で、アキノカタ(明方・恵方)に船首を向け、右回り(オセイマワリ)で3回まわって、お神酒やサンゴウ(散米)で一回に一度ずつ浄める。これはオモカジのトモ(船尾)に魔物があるので、浄めるという。船方は船主の家に招待され小祝宴となった。船上で煮炊きする船世帯では、新米の漁師=メーロツ衆(前樽衆・炊事する火床は前樽近くにある)が食事時に、まず船霊様に初穂をあげる。鍋のフタを逆にして、その上にシャモジを返さずに飯を盛る。シャモジを返さないのは、船をかえる(転覆する)のを嫌ったもので、二つに分けるのは、船霊様は2体だからという。

北村家の船霊軸は、船に飾るよりも、正月の浜年始から11日の船霊様の祝い日や、大漁の万祝いなどに飾ったというが、町屋の漁師の家に同形のものを含めて船霊軸は伝えられていない。

軸は富士山興法寺から出されたもので、唐子15人が漕ぐ宝船には、千手観音、寿老人、毘沙門天、

大黒天、弁財天と、主神と思われる唐風の服をまとい、沓をはいた一面八臂の女性神が大きく描かれている。漁師が大漁を祈るエビス様は入っていない。女性神のみ大きく描かれているところから、主神の船霊様であろう。特長は密教の諸仏のように一面八臂の像であるが、弁財天や観音菩薩にみるインド風の服装と裸足のお姿ではない。一緒に描かれている唐子と同様に唐風の服で沓をはく。なによりも神の性格を表すものは、頭上に横たわった馬である。天妃媽祖が村山修験者によって密教の諸仏と合成し、変化。修験の呪術的な船神になったものであろう。

富士修験は役小角に始まると伝えられるが、平安末期に末代(まつだい)によって基がつけられた。根拠地は、村山浅間神社の神宮寺・興法寺である。修験道主導のために、明治の廃仏毀釈や修験道禁止令によって興法寺は消滅し、村山浅間神社のみ残る。北村家に伝わった船霊軸は、明治初期以前のものとなる。この軸が興法寺から直接授かったものか、村山修験者が来村の折に持参したかは不明であるが、こでも磯原天妃と同様、修験者の影が見え隠れする。

天妃信仰は、華僑の間で多い。媽祖の絵を求めて横浜中華街の店を回ったが、その折一軒の女性店主を紹介された。平成10年5月5日、箱根町湯本の寺で媽祖祭が行われた。参詣者は中国人が多く、横浜の女性店主も参加していた。本尊は豊満な女性像。

日本では天妃信仰は九州に分布し、本州では茨城県内に磯原と他に1社、東北にもあるというがすでに船神としての信仰はうすい。磯原は羽黒山修験の勢力範囲。富士山の村山修験と交流があったとは考えられない。

民間における流行神や産業神は意外なほどに広い範囲に伝播し、そして消滅する。海上に働く人は魚を追って他所にも移る。廻船のように荷を運んで港を渡る人もいる。昭和初期まで、町職人が腕を磨く「西行」と称して他国を旅したように、前川漁師も大島や駿河湾のサクラエビ漁、東北の鮭漁にも携わった。

廻船は物も心も運ぶ。魚を追う漁師も、荷物を運ぶ船方も他国の人と接する機会が多い。船霊様をはじめ、漁習俗は南北に長い日本列島の九州から東北まで共通点が多い。20年ほど前、齢老いた漁師と東北の石巻へ旅行に行った。陸上の人

は話の通じない浜言葉を混えて、小田原漁師と石巻漁師の間で通じるのに驚いたことがあった。

埼玉県の岩船地藏信仰の痕跡を小田原市前川の常念寺の墓地で見た。羽黒山修験の湯殿山講の碑が二宮町の吾妻神社にある。海難事故防除の十一面観音・紀州青峯山正福寺の青峯山信仰を、前川漁師の聞き取りで確認した。

富士山興法寺の船霊軸は、他の場所から事例がないところから、村山修験独自のものかもしれない。仏教は中国や朝鮮半島から何度も日本に伝播された。その時点で道教の神々も日本に入る。七福神の寿老人や福祿寿、そして鍾馗も道教の神。庶民の求めに応じて修験道に、媽祖が船霊様に祀られても不思議ではない。

磯原天記社は正式には今も弟橋媛神社だが、天妃も合祀されている。天記社の時代、修験の行蔵院があったというが、今は社務所もない。御影は入手できず、磯原歴史民俗館にも天妃に関する資料は皆無に近く、富士山興法寺の船霊軸と比定できなかったのは心残りである。

船霊と船神

この稿では、船霊と船神に分けて考えてみた。船霊は船の霊・神にはまだ昇格しない霊とした。日本人の精霊思想である、動物にも植物にも物にも霊は生ずる。船の物霊が船霊様か。

船神は船を守り大漁を約束する神と考えたい。金尾羅社であったり、青峯山、相模大山、地方の神々であったりする。

船大工とメーロッシュ

木造の和船全盛の時代、海運や漁船でも遠海と地先漁業では大きく異なるが、地先漁業の場合は昭和40年代まで木造船の時代が続いた。

家の建前にあたる、船底のちような立てから、船霊様の御霊入れ、新造船の船おろしの儀式を司どるのは船大工だった。神聖な左舷は船大工を意味するミナオリあるいはミアガリの言葉が残るように、船霊様と船大工の関係は深い。その儀式は神道よりも修験道の影響が強い。

修験道は明治以降活動を停止し、戦後復活した。現在私たちが修験者を眼にするのは、滝開きや山開きなどの観光行事のなかに組み込まれているのが多い。江戸時代末期までは、上棟式や庚申講、加持祈禱など民衆に直接関わる宗教者であった。

昭和20年前後、前川浜の定置網にマダラウミヘビが入った。マダラウミヘビを幸福を招くシャチガメと漁師に教えたのは、修験の流れを汲む行者だった。ウミヘビ信仰はすでに過去のものになっていた当時でも、行者は知っていた。船霊様に係わる一連の儀式も、明治以前には修験者が司どりそれが船大工に伝承されたとも考えられる。

前川浜には、カシキという言葉は残らないが、メーロツシュがそれにあたる。カシキもメーロツシュも少年漁師である。漁撈従事の他に炊事と神への奉仕が役務であった。前川浜では船霊様への初穂あげや、マグロの心臓を抜き、薄く切ってお神酒をかけ、集落の神々に捧げる。どこか山の狐師の山神への作法に似る。「ツヨイコラ、○○さん」と祠の前で神の名を唱え、メーロツシュは祠を巡る。さながら船上に女性を乗せないかわりに、巫女の役割である。かつての少年漁師は、まだ女性を知らない年代であった。

何十例か船霊様の事例を読んだが、前川浜のように枕についての記載はない。伝えられているのは、船霊様はあちこちに動くという。前川浜の枕は、船霊様がミナオリの櫓枕に落ち着いて頂くために封入するとも考えられる。それにしても、一対の船霊様に4個の枕は多すぎる。なんとも姿のみにない船霊様である。

【註】

大杉神社は、茨城県稲敷郡桜川村阿波（あば）の大杉神社が本社といわれ、千葉・茨城・福島・宮城・岩手など、関東北部から東北にかけての太平洋沿岸の漁村に広く分布する。

漁師は不漁が続くと、前川浜ではマナオシ、地方によってはマンナオシといって、氏神などに参籠する。その時、前川浜ではすでに行っていないが、網の浮木を「あば様」と呼び節った。前川浜でも浮木はアバと呼ぶ。

あば神を、船霊様の親神とする地方は多い。

【参考文献】

- ・『東北の民俗 海と川と人』国分直一・高松敬吉編 慶友社、1988年
- ・『海の民俗学』牧田 茂、岩崎美術社、1982年
- ・『船』須藤利一編・法政大学出版局 他

(神奈川県文化財巡回調査員)

館所蔵民具目録 一農具Ⅰ-

佐川和裕

昭和63年10月、「湘南の丘陵と海」をテーマとして掲げて開館した当館にとって、生活様式が急激に変容しつつある地域の生活資料や情報の収集は大きな使命であった。幸い、多くの方々のご理解とご協力をいただき、いつしか充実した資料数を誇るまでに至っている。しかし、これらの中には昭和30年代以降に先賢の方々が地道に収集されてきた資料が含まれていることを忘れることはできない。数こそ多くはないが、今では手に入れることのできない貴重な民具も目にすることができる。当時、収集された民具は教育委員会の倉庫や図書館、学校の校舎などに保管されていた。しかし、その後の改築や新築などで移動を余儀なくされ、散逸してしまったものも少なくない。

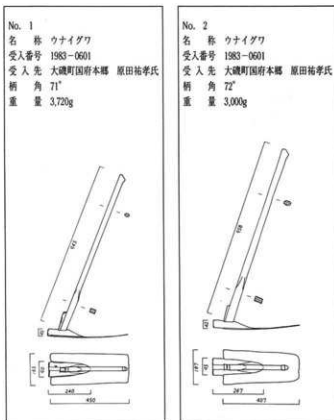
このような中で、民具の収集を本格的に開始したのは、昭和58年にリニューアルされた図書館の2階に郷土資料研究室が併設されて以降のことである。何よりも専用の収蔵庫が設けられたことが心強く、安心して収集活動にも力を注ぐことができるようになった。町広報で協力を呼び掛けたり、旧家を直接訪問してお願いするなどしているうちに次第に周知され、初年度だけで28件500点を越える民具の寄贈を受けることができた。その後、図書館の収蔵スペースだけでは対応しきれなくなると、新たにプレハブの収蔵庫の建設が叶うなど、その活動は徐々に認知されていったといえる。

昭和63年に郷土資料館が開館すると、家屋の取り壊しや不用品の処分際しては、必ずと言っていいほど資料館に声がかかるようになった。失われつつある民具を残すことが第一義と考えて活動していた担当者としてはうれしい限りであるが、その分、整理に費やす時間も激増してしまった。恥ずかしながら、民具が整理の順番を待って山積みされていく状況もめずらしくなく、企画展のテーマが、そのまま民具整理につながるという、本来ならば逆であるべき作業行程に甘んじている事態も起きている。このような状況の中で、今、いちばんに求められているのは民具目録を作ることである。本来、目録としては有形民俗文化財の分類に準拠しながらまとめるべきであろうが、整理が追いついていない現状や、一刻も早くご協力者

のご好意に報い、利用者の方々に還元することを考えると、とにかく可能なものから『目録』の形にすることが賢明であると考えている。もっとも将来的には目録を1冊に整理編集するという展望は持っている。

さて、本稿では、農耕に関わる民具のうち、鍬（ウナイグワ、サクリグワ、トグワ、マンガ）をまとめたものである。鍬については平成9年度に開催した夏季企画展『鍬 KUWA 一土の記憶一』において大磯丘陵域で使用されていた鍬を集成して展示した。農耕環境の変遷、鍬の形態と成因、鍬の入手方法や管理、鍛冶屋との関わり、農作業に関する儀礼など、さまざまな視座をもって捉えようとしたものである。そして、繰り返されるが寄贈された方々に謝意を表しつつ民具を積極的に活用することを大きな目的としたものであった。

同展では当館所蔵民具を中心に、大磯丘陵域の平塚市、二宮町、中井町、小田原市などの博物館施設や個人から借用しながら展開した。一部は重複するものの、本稿ではあくまでも当館所蔵民具の図版目録の性格と役割を持つものとして位置付けている。
(当館学芸員)



No. 3
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1984-0502
 受入先 大磯町西小磯 土屋文吉氏
 柄角 72°
 重量 2,850g



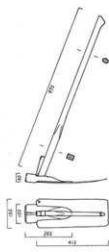
No. 4
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1984-0502
 受入先 大磯町西小磯 土屋文吉氏
 柄角 64°
 重量 3,130g



No. 5
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1984-0502
 受入先 大磯町西小磯 土屋文吉氏
 柄角 68°
 重量 3,820g



No. 6
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1984-0601
 受入先 大磯町国府本郷 原田省蔵氏
 柄角 68°
 重量 3,300g



No. 7
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1985-0102
 受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏
 柄角 76°
 重量 3,890g



No. 8
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1985-0102
 受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏
 柄角 72°
 重量 3,330g



No. 9
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1988-0201
 受入先 大磯町国府新宿 加藤友造氏
 柄角 72°
 重量 3,475g



No. 10
 名称 ウナイダワ
 受入番号 1989-1104
 受入先 大磯町西小磯 堀口 清氏
 柄角 68°
 重量 3,070g



No. 11

名称 ウナイグワ
 受入番号 1990-0503
 受入先 大磯町大磯 長島周一氏
 柄角 70°
 重量 3,690g



No. 12

名称 ウナイグワ
 受入番号 1991-0802
 受入先 大磯町西小磯 鈴木惣一氏
 柄角 73°
 重量 3,680g



No. 13

名称 ウナイックワ
 受入番号 1991-1201
 受入先 大磯町生沢 二宮成次氏
 柄角 71°
 重量 3,150g



No. 14

名称 ウナイグワ
 受入番号 1993-1102
 受入先 大磯町高麗 片野直三氏
 柄角 72°
 重量 3,490g



No. 15

名称 ウナイグワ (柄・カバのみ)
 受入番号 1993-1102
 受入先 大磯町高麗 片野直三氏
 柄角 -
 重量 1,400g



No. 16

名称 ウナイグワ
 受入番号 1994-0501
 受入先 大磯町国府本郷 匿名
 柄角 67°
 重量 2,900g



No. 17

名称 ウナイグワ
 受入番号 1994-0504
 受入先 中井町井ノ口 熊沢市郎氏
 柄角 74°
 重量 3,250g



No. 18

名称 スキグワ (ウナイグワ)
 受入番号 1994-1004
 受入先 大磯町国府新宿 加藤英雄氏
 柄角 72°
 重量 3,360g



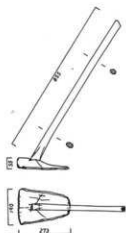
No. 19

名称 ウナイグワ
 受入番号 1996-1003
 受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
 柄角 72°
 重量 3,220g



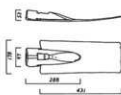
No. 20

名称 ウナイグワ (柄・カベツのみ)
 受入番号 1996-1003
 受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
 柄角 -
 重量 1,380g



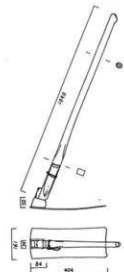
No. 21

名称 ウナイグワ (刃のみ)
 受入番号 1997-0405
 受入先 大磯町大磯 小川直吉氏
 柄角 -
 重量 2,730g



No. 22

名称 ウナイグワ
 受入番号 1989-1104
 受入先 大磯町西小磯 堀口 清氏
 柄角 67°
 重量 3,240g



No. 23

名称 ウナイグワ
 受入番号 1991-0508
 受入先 大磯町大磯 小巻広邦氏
 柄角 64°
 重量 2,790g



No. 24

名称 ウナイグワ
 受入番号 1994-1205
 受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
 柄角 72°
 重量 3,210g



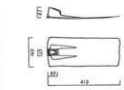
No. 25

名称 ウナイグワ
 受入番号 1994-1205
 受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
 柄角 73°
 重量 3,330g

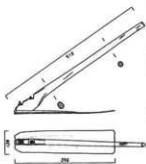


No. 26

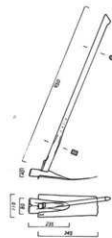
名称 ウナイグワ (マドグワ、刃のみ)
 受入番号 1985-1211
 受入先 平塚市神楽 佐川左一氏
 柄角 -
 重量 2,630g



No. 27
 名称 クワ
 受入番号 1996-0803
 受入先 大磯町西小磯 谷久保清彦氏
 柄角 33°
 重量 2,495g
 *使用地不明



No. 28
 名称 サクリダワ
 受入番号 1988-0201
 受入先 大磯町国府新宿 加藤友道氏
 柄角 68°
 重量 1,680g



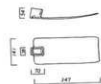
No. 29
 名称 サクリダワ
 受入番号 1989-0206
 受入先 大磯町西小磯 大内 満氏
 柄角 68°
 重量 2,410g



No. 30
 名称 サクリダワ
 受入番号 1995-1201
 受入先 大磯町高麗 中村藤雄氏
 柄角 71°
 重量 2,270g



No. 31
 名称 サクリダワ (刃のみ)
 受入番号 1985-1211
 受入先 平塚市御殿 佐川左一氏
 柄角 -
 重量 1,580g



No. 32
 名称 サクリダワ (マドダワ)
 受入番号 1985-1211
 受入先 平塚市御殿 佐川左一氏
 柄角 70°
 重量 2,280g



No. 33
 名称 サクリダワ
 受入番号 1983-0601
 受入先 大磯町国府本郷 原田祐孝氏
 柄角 84°
 重量 2,280g



No. 34
 名称 サクリダワ
 受入番号 1983-0601
 受入先 大磯町国府本郷 原田祐孝氏
 柄角 73°
 重量 2,620g



No. 35

名 称 サクリダワ

受入番号 1983-0601

受入先 大磯町国府本郷 原田祐孝氏

柄 角 74°

重 量 2,710g



No. 36

名 称 サクリダワ

受入番号 1984-0601

受入先 大磯町国府本郷 原田省蔵氏

柄 角 72°

重 量 2,480g



No. 37

名 称 サクリダワ

受入番号 1985-0102

受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏

柄 角 80°

重 量 2,540g



No. 38

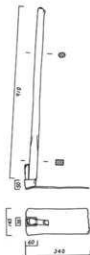
名 称 クワ

受入番号 1986-0804

受入先 大磯町大磯 深瀬友三郎氏

柄 角 86°

重 量 2,500g



No. 39

名 称 クワ

受入番号 1987-0608

受入先 大磯町大磯 関野好一氏

柄 角 76°

重 量 2,700g



No. 40

名 称 サクリダワ

受入番号 1990-0506

受入先 大磯町寺坂 湯口正毅氏

柄 角 68°

重 量 2,310g



No. 41

名 称 サクキダワ

受入番号 1993-0902

受入先 大磯町高麗 小幡昌定氏

柄 角 70°

重 量 1,980g



No. 42

名 称 サクキダワ

受入番号 1993-0902

受入先 大磯町高麗 小幡昌定氏

柄 角 74°

重 量 2,290g



No. 43

名称 サナキリダワ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄角 74°
重量 2,420g



No. 44

名称 サナリダワ
受入番号 1994-0501
受入先 大磯町国府本郷 匿名
柄角 78°
重量 2,460g



No. 45

名称 サナリダワ
受入番号 1994-0501
受入先 大磯町国府本郷 匿名
柄角 68°
重量 1,960g



No. 46

名称 サナリダワ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄角 78°
重量 2,350g



No. 47

名称 サッキリダワ (刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 運氏
柄角 -
重量 1,520g



No. 48

名称 サッキリダワ (刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 運氏
柄角 -
重量 1,410g



No. 49

名称 サッキリダワ (刃のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 運氏
柄角 -
重量 1,380g



No. 50

名称 トダワ
受入番号 1985-0102
受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏
柄角 80°
重量 2,230g



No. 51
 名称 トグワ
 受入番号 1986-0701
 受入先 大磯町大磯 吉田信太郎氏
 柄角 74°
 重量 1,400g



No. 52
 名称 トグワ
 受入番号 1994-0504
 受入先 中井町井ノ口 熊沢市郎氏
 柄角 66°
 重量 1,765g



No. 53
 名称 マンガ
 受入番号 1983-0601
 受入先 大磯町国府本郷 原田祐孝氏
 柄角 76°
 重量 2,040g



No. 54
 名称 マンゴックワ
 受入番号 1983-1201
 受入先 大磯町国府本郷 近藤 栄氏
 柄角 72°
 重量 3,040g



No. 55
 名称 マンゴックワ (刃のみ)
 受入番号 1983-1201
 受入先 大磯町国府本郷 近藤 栄氏
 柄角 -
 重量 1,730g



No. 56
 名称 ウナイマンガ
 受入番号 1984-0601
 受入先 大磯町国府本郷 原田省藏氏
 柄角 74°
 重量 2,720g



No. 57
 名称 マンガ
 受入番号 1985-0102
 受入先 大磯町生沢 竹内正雄氏
 柄角 73°
 重量 3,340g



No. 58
 名称 ウナイマンガ
 受入番号 1989-1104
 受入先 大磯町西小磯 堀口 清氏
 柄角 69°
 重量 2,830g



No. 59

名称 マンガ
受入番号 1990-0503
受入先 大磯町大磯 長島周一氏
柄角 82°
重量 2,680g



No. 60

名称 マンゴックワ
受入番号 1990-0506
受入先 大磯町寺坂 湯口正毅氏
柄角 72°
重量 3,470g



No. 61

名称 マンガ
受入番号 1991-0508
受入先 大磯町大磯 小池広邦氏
柄角 68°
重量 2,630g



No. 62

名称 マンガ (刃のみ)
受入番号 1991-1101
受入先 大磯町高麗 久保田光雄氏
柄角 -
重量 1,740g



No. 63

名称 クマンガ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄角 80°
重量 2,430g



No. 64

名称 クマンガ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄角 76°
重量 2,550g



No. 65

名称 クマンガ
受入番号 1993-0902
受入先 大磯町高麗 小幡昌宏氏
柄角 72°
重量 3,270g



No. 66

名称 マンガ
受入番号 1993-1102
受入先 大磯町高麗 片野直三氏
柄角 74°
重量 3,230g



No. 67

名称 マンガ
受入番号 1993-1102
受入先 大磯町高麗 片野直三氏
柄角 80°
重量 2,240g



No. 68

名称 マンガ
受入番号 1993-1102
受入先 大磯町高麗 片野直三氏
柄角 76°
重量 2,680g



No. 69

名称 マンガ
受入番号 1993-1102
受入先 大磯町高麗 片野直三氏
柄角 73°
重量 2,270g



No. 70

名称 マンガ
受入番号 1994-0501
受入先 大磯町国府本郷 匿名
柄角 70°
重量 2,380g



No. 71

名称 マンガックワ
受入番号 1994-1004
受入先 大磯町国府新宿 加藤英雄氏
柄角 70°
重量 3,020g



No. 72

名称 マンガ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄角 72°
重量 2,260g



No. 73

名称 マンガ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄角 76°
重量 2,100g



No. 74

名称 マンガ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄角 72°
重量 1,920g



No. 75

名称 マンガ
受入番号 1994-1205
受入先 平塚市東八幡 金子寿男氏
柄角 78°
重量 2,020g



No. 76

名称 サツキリマンガ (刀のみ)
受入番号 1995-0403
受入先 大磯町国府本郷 山口 進氏
柄角 -
重量 1,450g



No. 77

名称 サンボンマンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄角 72°
重量 2,530g



No. 78

名称 マンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄角 74°
重量 2,700g



No. 79

名称 マンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄角 76°
重量 2,470g



No. 80

名称 マンガ
受入番号 1996-1003
受入先 大磯町西小磯 高橋要蔵氏
柄角 72°
重量 2,990g



No. 81

名称 マンガ (刀のみ)
受入番号 1997-0405
受入先 大磯町大磯 小川直吉氏
柄角 -
重量 1,780g



*掲載民具の名称は、使用者または寄贈者が日常的に使用していた名称を基本とした。

*掲載民具の実測とトレースは、佐川和裕、加藤広美（当館臨時職員）がおこなった。

年 報

— 平成 9 年 度 —

◇平成10年12月28日発行

◇編集発行

大磯町郷土資料館

神奈川県中郡大磯町西小磯446-1

TEL 0463-61-4700

◇印刷

(株) カメイ写真